

2016 JUA/AUA Resident Program 参加報告

滑川 剛史 (千葉大)

この度、2016年5月6日から5月10日に米国 San Diego で開催された米国泌尿器科学会 (AUA) annual meeting 2016 に AUA/JUA resident program からの派遣として参加させていただきました。このプログラムでは、AUA annual meeting 期間中の滞在費ならびに registration 費用を学会に援助していただき、AUA resident bowl や president reception などのイベントに参加する貴重な機会もいただきました。

AUA annual meeting への参加は今回で3回目になりますが、参加する度にその規模の大きさや内容の先進性に圧倒されます。会場にはアメリカのみならず、世界中から泌尿器科医が集まり、人種、国籍等、back ground の異なる様々な医師が真剣に議論する様子は非常に刺激的でした。また、近年では腎臓領域における分子標的薬や前立腺癌領域における新規抗アンドロゲン薬など新薬が次々に本邦で承認されていますが、これらの薬剤は欧米では日本より先行して承認されていることもあり、豊富な使用経験を発表する演題は非常に勉強になりました。

AUA resident bowl は全米を8つの地域に分け、それぞれの地域で選出された resident が泌尿器科の知識を競う大会です。今回我々は Canada のチームである Northeastern の一員として参加しました。問題は最新のガイドラインに関するものや解剖学、発生学、そして歴代の AUA president の名前に至るまで幅広い分野から出題されます。問題の傾向として性功能に関する出題が多く、日本と米国において注目を集める分野の違いを強く感じました。チームで一つの回答を出すのですが、短い時間内での真剣な discussion は貴重な経験となりました。Northeastern team は1回戦を突破したものの続く準決勝で敗退してしまいました。

AUA president reception では世界各国の泌尿器科学会理事長や日本を代表する先生方の集まる会の中で、各国からの exchange program 参加者と交流する機会がありました。メキシコやインド、中国など各国の若い泌尿器科医と泌尿器科研修の違いなどについて意見交換する場ができたのもこの programのおかげでした。

現在、私は大学院生として前立腺癌をはじめとする泌尿器癌の基礎研究に取り組んでおります。AUA で得た経験を糧に今後とも努力を重ね、学術会議に参加し、泌尿器科学の発展に貢献できるような仕事がしたいと思っております。



写真：左から滑川、慶応大学 丹羽先生、Resident Bowl Northeastern team



写真上段：左から resident の3人、Chairman の Dr. Martin G Sanda

写真下段：慶応大学 丹羽先生、Dr. Ritenour、滑川

最後になりますが、このような機会を与えてくださった日本泌尿器科学会 額川晋国際委員長、米国泌尿器科学会の皆様、千葉大学大学院医学研究院泌尿器科学 市川智彦教授、滞在中に Dinner にご招待いただいた Mentor の Emory University of Hospital, Dr. Chad Ritenour, その他多くの先生方にこの場をお借りして心より深謝申し上げます。